

## ギニア月報（2026年1月）

### 主な出来事

#### 【内政】

- 4日、最高裁判所が2025年12月28日の大統領選挙の最終結果を発表し、ママディ・ドゥンブヤ大統領が選出。
- 9日、ギニア民主勢力連合（UFDG党）の活動家ネネ・ウソ・ディアロが自宅で拉致される。
- 17日、ノンゴにあるジェネラル・ランサナ・コンテスタジアムで大統領就任式を実施。
- 22日、大統領令（デクレ）によりバー首相および内閣メンバーの職務が終了。
- 26日、ウリ・バーが首相に再任。

#### 【外交】

- 17日、大統領就任式に、ルワンダのカガメ大統領、ガボンのオリギ大統領等が出席した他、米国は国務省高官を派遣。
- 29日、ECOWASによる制裁解除。意思決定機関に完全復帰。

#### 【経済（開発協力含む）】

- 5日、ギニアと中国は1240億ギニアフランの無償資金協力に係る協定に署名。
- 20日、草の根・人間の安全保障無償協力「シクル中央小学校校舎及びトイレ建替・井戸建設計画」署名式実施。

### 1 内政

- ・ 4日、最高裁判所が2025年12月28日の大統領選挙の最終結果を発表し、ママディ・ドゥンブヤ大統領が選出。
- ・ 4日、大統領選挙の結果が公表された後、新年の演説を実施。「勝者も敗者もない」と述べ、国内外全ての国民が団結し、公正で繁栄するギニアを築くことを主張。
- ・ 9日、ギニア民主勢力連合（UFDG党）の活動家ネネ・ウソ・ディアロが自宅で拉致される。
- ・ 12日、UFDG党首のセルー・ダレン・ディアロはRFIに出演した際に、ドゥンブヤ大統領が呼びかけた対話について、真の憲法秩序回復、人権保護を目指し、明確な政治的保証がなければ応じない姿勢を示した。

- ・ 17日、ノンゴにあるジェネラル・ランサナ・コンテスタジアムで大統領就任式を実施。
- ・ 22日、大統領令(デクレ)によりバー首相および内閣メンバーの職務が終了。
- ・ 22日、ドゥンブヤ大統領は憲法に従い、最高裁判所に資産申告。
- ・ 26日、ウリ・バーが首相に再任。
- ・ 27日、デクレによって第二次バー内閣は、27の省と2つの事務局から構成されることが決定。

## 2 外交

- ・ 17日、大統領就任式に、ルワンダのカガメ大統領、ガボンのオリギ大統領等が出席した他、米国は国務省高官を派遣。
- ・ 29日、ECOWASによる制裁解除。意思決定機関に完全復帰。

## 3 経済（経済協力含む）

- ・ 5日、ギニアと中国は1240億ギニアフランの無償資金協力に係る協定に署名。
- ・ 6日、ギニア商業農業開発プロジェクト(PDAC-G)の枠組みにおいて、フォニオと果物産業の114名の起業家に約200億ギニアフランの助成金が提供。
- ・ 10日、漁業大臣はテレビ出演した際に、ブルーエコノミー推進のために8,000万ドルの資金調達を目指していると発表。
- ・ 12日、ガマル大学に、西アフリカ数学研究所と建築・都市計画高等研究所が開設。
- ・ 14日、世界銀行の支援により、地下資源に関する知識を深め、鉱業の多様化を図るため、航空機による物理調査を開始。
- ・ 20日、草の根・人間の安全保障無償協力「シクル中央小学校校舎及びトイレ建替・井戸建設計画」署名式実施。
- ・ 29日、AFDは県畜産局に対し、データ収集・管理の改善、動物衛生監視の強化を目的として、パソコン等の情報機器を提供。

(了)